

日本とギリシャの現代音楽による国際交流シンポジウム

International Exchange Symposium by Contemporary Music of Japan and Greece

2006年12月12日 [火] 16時30分開講

東京文化会館4階大会議室

Tuesday, December 12 2006 4:30 pm
at Tokyo Bunkakaikan Meeting room (4F)

申し込み制70名限定 全自由席800円

予約・お問い合わせ: ミリオンコンサート協会 03-3501-5638



司会進行●
山本純ノ介
Junnosuke Yamamoto
作曲家

Symposium

テーマ

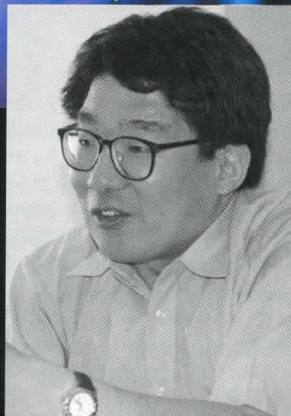
「ギリシャと日本: 音楽の二つのトピクス」

Japan & Greece

ギリシャを起源としてササラ型の発展過程をたどった西洋音楽と、
たこつぼ型の外来文化摂取体系から逃れられない日本が21世紀に残せるものは何か。



パネリスト●
国枝春恵 Harue Kunieda
作曲家



基調講演・パネリスト●
高久 暁 Satoru Takaku
音楽学



パネリスト●
土佐尚子 Naoko Tosa
メディアアーティスト

ジャパン&グリース現代室内楽コンサート東京2006

CONCERT OF CONTEMPORARY JAPANESE AND GREEK CHAMBER MUSIC IN TOKYO

2006年12月12日 [火] 18時30分開演 (18:00開場)

東京文化会館小ホール 全指定席4,000円

Tuesday, December 12 2006 6:30pm at Tokyo Bunkakaikan Recital Hall

招聘演奏者●デモステネス・ステファニディス (Pf)

アレクサンドラ・グラバス (Msp)

演奏者●小林美恵 (Vn) / 安田謙一郎 (Vc)

松山元 (Pf) / 板倉康明 (Cla) / 山本きよみ (Pf)

前田尚徳 (Vn) / 青木篤子 (Va)

主催●日本とギリシャの現代音楽による国際交流委員会

後援●(社)日本作曲家協議会 / 日本現代音楽協会

日口音楽家協会

CNプレイガイド 0570-08-9990

東京文化会館チケットサービス 03-5815-5452

コンサートマネジメント:

ミリオンコンサート協会 03-3501-5638

Concert

Japan & Greece

作曲家・曲目●



国枝春恵「三つの歌曲」—ソプラノ、クラリネット、
ピアノのための〜西脇順三郎"Ambarvalia"ギリシャ的抒情詩より
Harue Kunieda : "Three Songs" for Soprano, Clarinet and Piano from
"Ambarvalia" by Junzaburo Nishiwaki (2001)



山本純ノ介
碑文 ジョージ・セフェリスの詩による
Junnosuke Yamamoto : Epitaph Dichtung George Seferis



南 聡
閃光器官a ヴィオラ・ソロのためのOp.32 No.1
Satoshi Minami : "FLASH ORGANISM - a" for viola solo, op.32 no.1



西村朗
リチュアル
Akira Nishimura : Ritual



デモステネス・ステファニディス
テアトリコンIVニーチェの詩による七つの肖像
Demosthenes Stephanidis : Selbstportrait-Dichtung F,Nietzsch



アリキ・コーリヤ
ヴァイオリンとチェロのための二重奏
Aliko Kolia : Duett for Violin and Cello



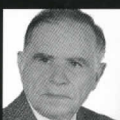
フリストス・ランブリアニディス
ソナタ四番
Cristos Lambrianidis : Sonata nr4



ヤニ・フリストウ
TSエリオットの詩による六つの歌
Jani Christou : Six songs on the poems of T.S.Eliot



ミクス・テオドラキス
ヴァイオリンとピアノのためのソナチネ一番
Mikis Theodorakis : Sonatine for Violin and Piano No1



ニキフォロス・ネヴラキス
スケルツェト
Nikiforos Nevrakis : Schrzetto

Interactive art ©Naoko Tosa

助成 財団法人 ローム ミュージック ファンデーション

日本とギリシャの現代音楽による国際交流シンポジウム

2006.12.12 tue 16:30- 東京文化会館4階大会議室

第3回ジャパン&グリース現代室内楽コンサート東京2006

2006.12.12 tue 18:30- 東京文化会館小ホール

参加者プロフィール



シンポジウム司会進行
作曲

山本純ノ介

Junnosuke Yamamoto (1958-)

東京藝術大学大学院研究科修士課程作曲専攻修了。1995年9月平成7年度文化庁派遣芸術家在外特別研修員として、ドイツ連邦共和国ベルリンに留学。D.シュネーベル、W.ツィーマーマン、と親交を持ち、P.エトウィッシュ、アンサンブルモデルン等のもとで、研修。ダルムシュタットにて、D・ステファニディスと共同研究。声楽、打楽、電脳楽、などにより「音楽は崇高な祈り」として、創作と新たな作曲システムの構築、新しい技法を探究。法頭伝交響曲、迦樓羅〜黎明の響〜、交響曲第三番五重塔などの交響、管弦楽作品をはじめ、声楽曲、室内楽作品などがある。シルクロード国際管弦楽コンクール優秀賞。ピアノのための絶対音楽、Kalligraphie (書) I、IIなどいずれも音楽之友社刊。現在千葉大学助教授。東京藝術大学音楽学部作曲科非常勤講師。日本音楽著作権協会正会員、日本作曲家協議会理事、日口音楽家協会運営委員、日本現代音楽協会会員。



作曲

西村 朗

Akira Nishimura (1953-)

大阪市生まれ。東京芸術大学及び同大学院に学ぶ。日本音楽コンクール作曲部門第1位(1974)、エリザベート国際音楽コンクール作曲部門大賞(1977・ブリュッセル)、ルイジ・ダルツァピッコラ作曲賞(1977・ミラノ)、尾高賞(1988・1992・1993)、中島健蔵音楽賞(1990)、京都音楽賞[実践部門賞](1991)、日本現代芸術振興賞(1994)、エクソンモービル音楽賞(2001)、第3回別宮賞(2002)、第36回(2004年度)サントリー音楽賞、第47回毎日芸術賞(2005)等を受賞。この他、02年度芸術祭大賞に「アルディッティSQプレイズ西村朗『西村朗作品集5』」が、05年度芸術祭優秀賞に「メタモルフォーシス・西村朗室内交響曲」が選ばれた。現在、東京音楽大学教授、(社)日本作曲家協議会副会長の他、2000年より大阪いずみホールのレジデントオーケストラ、いずみシンフォニエッタ大阪の音楽監修を務めている。



作曲

フリストス・ランブリアニディス

Cristos Lambrianidi (1951-)

ピレウス生まれ。早くからギリシャ正教の教会音楽に親しむ。国民音楽院を卒業後、ダルムシュタットとケルンでヨハネス・ブリッチュとカール・ハイムツ・シュトックハウゼンのもとで学び、ケルンとアテネを拠点に作曲活動を行う。ギリシャの民俗的要素と現代音楽の語法の融合を意図した作品を多数発表している。



作曲

アリキ・コーリヤ

Aliko Kolia (1938-)

アテネ生まれ。ギリシャにおける女流作曲家の先駆的存在。国民音楽院でピアノと作曲を学び、アテネ工科大学でビザンティン芸術史を学ぶ。Union of Greek Composers副会長。作品はギリシャ、ベルリン、ボストン、トゥールーズなどで演奏されている。エピナル音楽コンクールの審査員を務める。



シンポジウムパネリスト
作曲

国枝春恵

Harue Kunieda (1958-)

1983年東京芸術大学大学院作曲専攻修了。池内友次郎、野田暉行、オリヴァー・ナッセン各氏に師事。1982年第33回ヴィオッティ国際音楽コンクール作曲部門特別賞。1986年タンブルウッド夏期講習給費研修生。作品は、ISCM-ACL香港、仙台、オーストラリア、イスラエル大会、タンブルウッド現代音楽祭、ISCM「世界の音楽の日々」ルクセンブルク大会等で演奏されている。2003年文化庁特別派遣在外研修員。現在、日本現代音楽協会、日本作曲家協議会、21世紀音楽の会、熊本大学教育学部助教授。主要作品に「セラフィム」ーヴァイオリンとオーケストラのための(197・99)ノカメラータ・トウキョウよりCDリリース(2003)ノオーケストラのための「レヴェレーション」(2004)ノソプラノ、ハープ、オーケストラのための『地上の平和』(N響 Music Tomorrow 2005 委嘱作品)ノ無伴奏混声合唱組曲「花に」ノ3つの混声合唱小品集「見えない翼をあなたに」(音楽之友社刊 等、合唱曲、ピアノ曲なども多数出版されている。

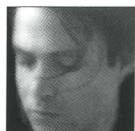


シンポジウムパネリスト
メディアアーティスト

土佐尚子

Naoko Tosa

京都大学特任教授。感情、無意識、記憶の情報を扱ったコミュニケーションをテーマにアート&テクノロジー領域を研究・作品の制作を行う。最近では松岡正剛氏・近藤等則氏らと禅をテーマにZENetic ComputerをMIT博物館の企画で展示。作品は国立国際美術館など6つの美術館に収蔵されている。ニューヨーク近代美術館、メトロポリタン美術館等の企画展に招待展示。東京大学大学院工学系研究科電子情報工学専攻博士号取得。1996年IEEEマルチメディア国際会議'96最優秀論文賞。2000年、代表的アート&テクノロジーの国際会議アルスエレクトロニカのインタラクティブアート部門で受賞。2000年度文化庁芸術家在外派遣特別研修員、2002年~2004年マサチューセッツ工科大学建築学部Center for Advanced Visual Studies フェロー芸術家勤務を経て2005年より現職。

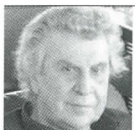


作曲

ヤニ・フリストウ

Jani Christou (1926-1970)

アレクサンドリア(エジプト)生まれ。ケンブリッジ大学で哲学をヴィトゲンシュタインに学び、ベルクの研究者として知られるレトリヒに作曲を学ぶ。さらにイタリアで作曲を研鑽。アテネとヒオス島を拠点に作曲活動を行い、1964年にギリシャ初の電子音楽スタジオを設立。ユング心理学の研究者だった兄の影響を受け、1960年代後半には聞き手の心理の深層に働きかける呪術的シターピースともいえる独自の音楽様式を確立したが、1970年に自動車事故で急逝。近年作品の再評価が著しい。



作曲

ミキス・テオドラキス

Mikis Theodorakis (1925-)

ヒオス島生まれ。現存するギリシャ最大の国民的作曲家。1950年代以降、マノス・ハジダキスとともにギリシャのあらゆる音楽ジャンルで活躍してそのスタイルを刷新、ギリシャ人すべてが享受できる国民的音楽を創出した。同時に20世紀後半のギリシャの政治にも、国際的視野と民衆的な立場を兼ね備えたスタンスから密接に関わり、ギリシャを代表する文化人・芸術家として全世界で知られている。現在も創作・自作の演奏・文筆活動に旺盛な意欲を見せている。



基調講演・シンポジウムパネリスト
音楽学

高久 暁

Satoru Takaku

日大芸術学部で教鞭をとる傍ら、ギリシャの音楽、文化の研究を続けている。ドデカフォニーを用いながらも新ウィーン学派とは異なる視点で作曲したギリシャの作曲家、スカルコッタスの作品を日本に紹介する等、ギリシャ作品の研究者。(文責山本)



作曲

南 聡

Satoshi Minami (1955-)

1955年東京生まれ。東京芸術大学大学院修了。作曲を野田暉行、黛敏郎両氏に師事。1986年以来北海道に在住、現在北海道教育大学にて後進の指導にあたる。国際現代音楽協会主催「世界音楽の日々」に2度入選。主な作品は全音、JFC、マザーアース等から出版されている他、CDにフォンテック社より南聡作品集「ジグザグパッパ」がリリースされている。主要作品に『響えれば・・・の注解』1986/88、『彩色計画』~1989~1996、『敬ばしき知識の花園』1986~2004、『日本製ロッシニョール』1994、『閃光器官a』1995、『美々帯城』1996、『ピアノソナタ』1~5 1989~2001などがある。



作曲

ニキフォロス・ネヴラキス

Nikiforos Nevrakis

アテネ生まれ。国民音楽院でトロンボーン、音楽理論、楽器法、作曲を学ぶ。スカルコッタス音楽院(アテネ)院長、国民音楽院教授。Union of Greek Composers会長。

現代音楽のグローバルな流れの中で、私たちはあえてギリシャと日本の現代音楽の交流を目論むことにした。地域的に見れば、近現代のギリシャも日本も数千年の文化的伝統を誇りながら、西洋文明と東洋文明の双方から影響を受けている。ギリシャはシルクロードの西端にあり、日本は東端に位置する。特に近代に西洋音楽を受容して以来、両国は独自の芸術音楽を築き上げてきた。両国の代表的な作曲家による作品をひとつの場と時間の流れのなかで演奏し、またシンポジウムを行うことによって、西洋文化の影響を受けた東洋の音楽文化と東洋文化の影響を受けた西洋音楽文化が会い、それぞれのアイデンティティが照射されることになるだろう。ギリシャを起源としてササラ型の発展過程をたどった西洋音楽と、たこつぼ型の外来文化摂取体系から逃れられない日本が21世紀に残せるものは何か。両国の代表的な音楽作品を体験することから考察への糸口を探りたい。

招聘演奏家



作曲・演奏 Pf

デモステネス・ステファニディス

Demosthenes Stephanidis (1957-)

アテネ生まれ。国民音楽院でピアノ、室内楽、作曲を学び19歳でピアニストとしてデビュー。その後、ドイツに留学し、ダルムシュタット音楽大学で、ペーター・シュマルフスとハリーナ・チェルニー＝ステファンスカにピアノを、ヨハネス・ブリッチュに音楽学を学ぶ。さらにヴィルヘルム・ケンプのマスタークラスで、ベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲の演奏解釈を修得しダルムシュタットで7夜連続のリサイタルを開催し、全32曲を演奏。ダルムシュタット現代音楽夏期講習会に作曲家・ピアニストとして参加。1991年にはギリシャの民族舞曲をピアノ独奏曲に編曲・演奏したCDをリリース。ギリシャの民族的な作風から、和楽器のための作品、前衛的な作品と幅広い創作活動領域を持っている。2004年ギリシャオリムピックにて、バレエ音楽「Blinde Tränen」が初演され国際音楽作曲賞トモス賞受賞。



演奏 Msp

アレクサンドラ・グラバス

Alexandra Gravas

ドイツ生まれのギリシャ人メゾソプラノ。幼少よりドイツとギリシャの異なる精神文化を背景に育つ。フランクフルト大学で音楽学、哲学、ドイツ文学を学ぶ。発声をロンドン中心に活躍するローシューツァン (Loh Siew Tuan) に師事。また、高名なソプラノ、サラウォーカー氏とペラローザ女史の下で、マスタークラスを終了する。彼女のなかに内在するギリシャ的、天分は、現在も発展途上にある演奏経歴に重要な役割を担っている、リサイタルで、積極的にギリシャ現代音楽作品をとりあげる姿勢はその一端と言えよう。現代ギリシャの英雄的な作曲家テオドラキスは、彼女を重要な一連の自作の歌曲「大カラス」「生と死」「Les dix Eluard」の初演ソプラノとして、抜擢している。現在ロンドンを中心に活躍している、オラマアンサンプルの主宰を務めている。(文責山本)



演奏 Vc

安田謙一郎

Kenichiro Yasuda

齋藤秀雄、G.カサド、P.フルニエに師事。1960年第29回毎日音楽コンクール第2位、1966年同第34回第1位大賞、第3回チャイコフスキー国際コンクール第3位。安田弦楽四重奏団チェロ奏者。日本作曲家協議会会員。



演奏 Pf

松山 元

Gen Matsuyama

ドイツ国立ケルン音楽大学卒業。ピアノをアロイス・コンタルスキー氏に師事。これまでに国内はもとより、ヨーロッパ、アメリカ、中国、韓国の各地で演奏する他、国際（音楽祭、講習会、コンクール）への出演、講師、審査員等も務めている。平成12年度文化庁一年派遣芸術家在外研修員、及びボンボルト大学客員研究員。また、ベルリン芸術大学にて教鞭を執る。クラングフォルム・ベルリン（ベルリン・フィルメンバーによる室内楽奏団）代表。



演奏 Cla

板倉康明

Yasuaki Itakura

1960年東京生まれ。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て東京藝術大学音楽学部卒業。フランス政府給費留学生として渡仏し、パリ市立音楽院、パリ国立高等音楽院を卒業。クラリネットを故三島勝輔、ギョドゥブリュ、室内楽をモーリス・ブルグ、音楽全般を故アンリエット・ピュイグロジェ氏に師事。現在、東京シンフォニエッタ音楽監督。中島健蔵賞、第66回、68回日本音楽コンクール委員会特別賞を受賞。



演奏 Pf

山本きよみ

Kiyomi Yakamamoto

武蔵野音楽大学ピアノ科卒業。米谷總子、故伊達純、中川和義の諸氏に師事。在学中から神奈川県立音楽堂推薦音楽会に出演する。ショパン、ベートーヴェンなどのピアノコンチェルトをオーケストラと共演し、好評を博す。新作オペラやミュージカルのコレペティウアを務め、地方自治体主催のレクチャーコンサートを行う。NHK教育番組、ドラマ、CD、映画のレコーディングなど、幅広く活躍。音楽グループ「ねいろ」主宰。

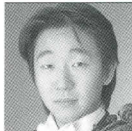


演奏 Vn

小林美恵

Mie Kobayashi

東京藝術大学附属高校から大学に学ぶ。1983年、第52回日本音楽コンクール第2位。88年、第4回シュボア国際ヴァイオリン・コンクール第2位及びソナタ賞を受賞。90年、ロン＝ティボー国際コンクールヴァイオリン部門で日本人として初めて優勝し、本格的な演奏活動を開始して以来、フランスを中心に欧州各地や日本国内で、リサイタルおよびオーケストラと共演を重ねている。室内楽でも充実した活動を行っており、現在水戸ATMアンサンブルおよび静岡AOIカルテットのメンバー。音楽への深い共感と集中力の高さ、自在な表現力で作品の本質に迫る。CDはコロムビアより「フランス・ヴァイオリン・ソナタ集」、ヴァイオリン小品集「美しい夕暮れ」から、「小林美恵 プレイズ・クライスラー」まで6枚と2005年7月にはオクタヴィア・レコードよりギター・尾尻雅弘とのデュオ「カルメンファンタジー」をリリース。現在、昭和音楽大学の助教授をつとめ、後進の指導にもあたっている。



演奏 Vn

前田尚徳

Hisanori Maeda

2歳半よりヴァイオリンを始める。1998年東京大学経済学部入学、翌年桐朋学園音楽大学カレッジディプロマコース入学。2002年サイトウ・キネン小澤征爾塾「森のコンサート」でコンサートマスターを務める。2000、01、02年度、小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト、モーツァルト歌劇『フィガロの結婚』、『コシ・ファン・トゥッテ』、『ドン・ジョヴァンニ』出演。サイトウ・キネン・オーケストラメンバーによる小澤征爾オペラ・プロジェクト2003特別公演出演。ヴァイオリンを原田幸一郎氏、室内楽を原田禎夫氏、岡田伸夫氏に師事。ソリストとして東京ユニバーサルフィルハーモニー管弦楽団と共演、大阪センチュリー交響楽団ゲストコンサートマスターなど、現在多方面で活躍中。



演奏 Va

青木篤子

Atsuko Aoki

桐朋学園大学、同大学研究科、洗足学園音楽大学ソリストコースにて学ぶ。第15回宝塚バガ音楽コンクール、第2回名古屋国際音楽コンクール、第2回東京音楽コンクールにてそれぞれ第1位を受賞。これまでに小澤征爾オペラプロジェクト、倉敷音楽祭、ヴィオラスベース、サイトウキネンフェスティバル等に参加。ヴァイオリンを東儀幸、原田幸一郎の各氏に、ヴィオラを岡田伸夫氏に師事。